

行っていました。国の部落差別犯罪をゆるせない」と闘っていました。

私は、昌和の遺志を引き継いで応能応益家賃制度撤廃まで闘います。

八尾市と交渉し、何度も東京に行って勝ちとった住宅

私たちは昭和35年に生野から西郡にきました。西郡にきたときびっくりしました。下水道が整備されておらず、雨の度に水に浸かっています。川から水があふれ、すぐ床下浸水になり、非常に不衛生でウジがわいていました。夫は、ムラの人と一緒に住宅建設の運動で八尾市に交渉に行ったりしてました。当時みんな役所に泊まり込んでやるという決意でやっています。当時の市長は大橋市長です。夫は東京にも何度も行ってました。休みをとらなければならぬので、結局仕事は首になってしまいました。土方の仕事だったので、1日5000円の日当で、梅雨の時は仕事がなく、私がレッキスという会社で毎日残業して生活を支えています。

住宅建設は、ウジがわいて不潔で、地主も賛成して住宅が建てられてい

たのです。このように苦勞して建てた住宅です。私たち家族は、はじめ14棟に夫婦子供4人で住んでいましたが、昭和39年、2号館に昌和と私が住むようになりまし。しかしウジ虫が出てきて現在の店舗3号館に移ったのです。14棟の時の家賃は10000円でした。家賃は一律で管理人が集めていました。

住民への説明がまったくなかった
た応能応益家賃制度の導入

応能応益家賃制度が導入される時、私たち住民には全く説明がありませんでした。導入されたあと初めて隣保館で説明があり、昌和と夫は説明を聞きに行きました。昌和はこの家賃制度は家賃が上がって住めなくなるという



2月24日支部八尾北労組は橋下打倒闘争に決起

反対して供託しました。その当時神戸や八尾北医療センターの人やいろんなところに友

達がい、いろいろ情報を聞いて反対しなければと言っていました。夫は反対しても仕方ないと言って、よく二人が言い合いをしていました。しかし、昌和はみんなから情報を聞いてどうなるかわかっていたのだと思います。言っていた通りになりました。

市の手先となつて賛成した地区協

解放同盟大阪府連、地区協、吉村議員が八尾市と手を組んでこの家賃制度を導入したのです。そのためにみんな協議して家賃を決めたり、助け合ったりすることができなくなっていました。八尾市と地区協によって、バラにされてきました。若い人が出て行かなければならぬ、ムラは壊されてしまいました。役所の態度は悪くなり、みんなの声を聴きません。追い出しがねらいです。役所は本当に西郡をつぶしてきています。八尾北医療センターも売り飛ばそうとしています。八尾市は、店舗付き3号棟から私を追い出して、早くつぶしたいのです。こんなことを許したら、生きていけなくなります。

今、高齢者をとりのこし、エレベ

ターのある棟や1階に住み替えることもやらずに、高齢者が死ぬのを待つている八尾市はゆるせません。1階に住み替えられたら昌和も帰れたはず。私だけでなく多くの高齢者が、自分たちが運動して建てた住宅なのに、なぜ八尾市田中市長によってこんなひどい目に合わなければならぬのかと怒っています。

追い出しと徹底的に闘う！

応能応益家賃制度を撤回してください。田中市長と吉村議員のウソとだましはゆるせません。追い出しはゆるしません。徹底的に闘います。

石川一雄さん不当逮捕50力年糾弾！
狭山第3次再審闘争勝利！

5.19全関西狭山集会

5月19日(日)午後2時
幸第二公園

*雨天の時は桂人権コミュニティセンター
主催：全国連西郡支部・八尾北医療センター
労働組合・関西労組交流センター

5.25八尾北患者交流会

5月25日ひる1時半
八尾北医療センター待合

